

精神看護学実習（3単位）

実習目的

心に健康問題を持つ対象を総合的に理解し、対象に応じた看護を考えられる知識・技術・態度を養う。

実習構成

実習名	単位数	対象学年	実習施設	
精神看護学実習	3単位	3年次	県立こころの医療センター	2.1単位
			就労継続支援施設 特定非営利活動法人絆 精神障害者共同作業所 なごみ 特定非営利活動法人ウィング・ハート ネットワークひこばえ 特定非営利活動法人風の会 安倍口作業所	0.6単位
			地域活動支援センター 静岡市支援センターなごやか	0.3単位

1. 実習目標

1) 実習目標

- (1) 心に健康問題を持つ対象とその家族への援助活動を通して、対象を知る。
- (2) 患者 - 看護者関係の中で自己を理解し、治療的関係を考える。

2) 行動目標

- (1) 対象を取り巻く人間関係を記述する。
- (2) 心の健康問題に影響を及ぼす要因が考えられる。
- (3) 精神障害の分類・経過を記述する。
- (4) 対象に現れている精神症状を記述する。
- (5) 対象が受けている主な治療の目的と内容を記述する。
- (6) 対象の健康的側面を記述する。
- (7) 症状・治療などから引き起こされる、コミュニケーションや日常生活行動の問題を記述する。
- (8) 施設の構造・機能・安全管理の特殊性を記述する。
- (9) 対象を取り巻く人的環境の調整がどのように行われているのかを記述する。
- (10) 対象が地域で生活するうえでの問題について記述する。
- (11) 社会参加活動に必要なサポートシステムと継続看護の必要性が述べられる。
- (12) 対象とのコミュニケーションの基本について述べられる。
- (13) 患者 - 看護者関係を再構成し、対象との相互作用の中で自己の傾向に気づくことができる。
- (14) 対象との相互作用を評価し、治療的関係について考える。

2. 実習方法

【県立こころの医療センター】

- 1) 病棟オリエンテーションを病棟実習初日に受ける。
- 2) 患者1名を受け持ち、患者との関わりの中で患者理解を深める。
 - (1) 受け持ち患者の現病歴および生育歴について説明を受ける。
 - (2) 現在の精神状態や生活状況をとらえるため、参加的観察を行う。
 - (3) 得た情報を整理し、患者の生活行動に焦点を当ててアセスメントする。
 - (4) 患者との関わりを再構成することで、患者理解の方法やアプローチの適否を評価する。
 - (5) 患者との関わりや観察および実施したことについて報告する。
- 3) 受け持ち患者に限定することなく、積極的に看護活動の見学や体験をする。
- 4) 実習目標の達成に努めるため、毎日カンファレンスを行う。また、実習最終日には学びを深め共有するためにカンファレンスを行う。
- 5) リハビリテーションセンターの活動を通して、リハビリテーション療法と看護の関わりを考える。
- 6) 実習終了後、精神科病棟実習での学びをレポートにまとめる。

【地域施設実習】

- 1) 就労継続支援施設では利用者と共に作業を行い、地域活動支援センターでは利用者の活動に共に参加する。
- 2) 実習の終了時にカンファレンスを行い、活動を通して気づいたことや学びを発表する。また、自身の戸惑いや気がかり、疑問点など指導者に質問し助言を受ける。
- 3) 施設の利用者とのコミュニケーションや活動を通して、心の健康問題のある人の地域生活の現状や問題などを知る。
- 4) 心に健康問題を持つ人の地域生活の活動を通して心の健康問題への関心を高め、利用者への理解を深める。

3. 留意点

【県立こころの医療センター】

- 1) 個人情報の取り扱いに十分留意し、自分の行動に責任を持つ。
- 2) 病棟実習では鍵の取り扱いに十分留意する。また、危険物の持ち込みをしない。
- 3) 患者の受け持ち看護師や担当医師と積極的に連絡をとり、助言を受ける。
- 4) 受け持ちに限らず患者との関わりで気づいたことは、積極的に報告し相談する。
- 5) 学生主体で毎日カンファレンスを行い、学習体験を共有し学びを深める。イメージ像・関連図を基に思考を整理する。
- 6) 実習期間中に、1日を限度として学習のまとめの時間をとる。

【地域施設実習】

- 1) 個人情報の取り扱いに十分留意し、自分の行動に責任を持つ。
- 2) 就労継続支援施設や地域活動支援センターの実習では、指導員や利用者積極的に関わり、学びを深める。
- 3) 利用者との関わりで気づいたことは、積極的に報告し相談する。
- 4) カンファレンスは、テーマに沿って学生主体で行い助言を受ける。